

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 21 年 8 月 20 日 (2009.8.20)

【公開番号】特開 2008-17897 (P2008-17897A)

【公開日】平成 20 年 1 月 31 日 (2008.1.31)

【年通号数】公開・登録公報 2008-004

【出願番号】特願 2006-190060 (P2006-190060)

【国際特許分類】

A 6 1 G 7/05 (2006.01)

A 4 7 C 21/08 (2006.01)

【F I】

A 6 1 G 7/06

A 4 7 C 21/08 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 7 月 7 日 (2009.7.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ベッド (B) の側部に装着して使用する介助装置 (1) において、ベッド (B) の嵌合孔 (h, h) に装着される基部フレーム (2) を備え、この基部フレーム (2) にはベッド (B) 上で仰臥する使用者 (U) の腰部またはベッド (B) の腰受と背受の屈曲部の側部に位置する支柱 (5) と、ベッド (B) の脚側端部に位置する支柱 (6) が一体に形成されており、前記支柱 (5) には支柱 (5) 周りに回動自在となるよう第一回動手摺部 (3) を設け、前記支柱 (6) の上端にはベッド (B) の長手方向に略平行な水平軸周りに回動自在となるよう第二回動手摺部 (4) を設け、これらの回動手摺部 (3), (4) は所定の角度で固定できるようにロック装置 (18), (38) がそれぞれ具備されており、これらの回動手摺部 (3), (4) により少なくともベッド (B) 側部を閉塞する状態と、前記第一回動手摺部 (3) をベッド (B) の外方に回動するとともに、前記第二回動手摺部 (4) を垂下した状態から上方回動することによりベッド (B) の使用者 (U) の腰部から足先までの側方が開放された状態となるよう構成したことを特徴とする介助装置 (1)。

【請求項 2】

上記第一回動手摺部 (3) を基部フレーム (2') に具備し、上記第二回動手摺部 (4) を別の基部フレーム (2') に具備したことを特徴とする請求項 1 に記載の介助装置 (1)。

【請求項 3】

ベッド (B) の側部に装着され、ベッド (B) の脚部側にベッド (B) の長手方向に略平行な水平軸周りに回動自在な第二回動手摺部 (4) と、この第二回動手摺部 (4) に隣接するとともに垂直軸周りに回動自在な第一回動手摺部 (3) と、この第一回動手摺部 (3) に隣接するサイドレール (S) によってベッド (B) の側部全面を閉塞可能に構成したことを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の介助装置 (1)。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明は、上記課題を解決するために、請求項1の発明では、ベッドBの側部に装着して使用する介助装置1において、ベッドBの嵌合孔h、hに装着される基部フレーム2を備え、この基部フレーム2にはベッドB上で仰臥する使用者Uの腰部またはベッドBの腰受と背受の屈曲部の側部に位置する支柱5と、ベッドBの脚側端部に位置する支柱6が一体に形成されており、前記支柱5には支柱5周りに回動自在となるよう第一回動手摺部3を設け、前記支柱6の上端にはベッドBの長手方向に略平行な水平軸周りに回動自在となるよう第二回動手摺部4を設け、これらの回動手摺部3、4は所定の角度で固定できるようにロック装置18、38がそれぞれ具備されており、これらの回動手摺部3、4により少なくともベッドB側部を閉塞する状態と、前記第一回動手摺部3をベッドBの外方に回動するとともに、前記第二回動手摺部4を垂下した状態から上方回動することによりベッドBの使用者Uの腰部から足先までの側方が開放された状態となるよう構成したことを特徴とする。

また、請求項2の発明では、上記第一回動手摺部3を基部フレーム2'に具備し、上記第二回動手摺部4を別の基部フレーム2'に具備したことを特徴とする。

さらに、請求項3の発明では、ベッドBの側部に装着され、ベッドBの脚部側にベッドBの長手方向に略平行な水平軸周りに回動自在な第二回動手摺部4と、この第二回動手摺部4に隣接するとともに垂直軸周りに回動自在な第一回動手摺部3と、この第一回動手摺部3に隣接するサイドレールSによってベッドBの側部全面を閉塞可能に構成したことを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

また、前記第一回動手摺部3は、中空パイプをループ状に湾曲させた手摺枠体14と、該手摺枠体14の継ぎ合わせ部に固着され下面に前記菊座受部5aの歯列と噛み合う歯列15aを有する筒状の基部15からなる。第一回動手摺部3は、この筒状の基部15を前記菊座受部5aと一体の嵌合軸部9に嵌合することにより該嵌合軸部9周りに回動可能に基部フレーム2に取り付けられる。なお、16はスカートであり、この菊座受部5aと歯列15aとの間に異物が入り込まないようにするものである。また、17は手摺プレートであって、ベッドBの使用者Uの手や布団などが不用意にベッドBからはみ出さないようにするためのものである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

また、前記第二回動手摺部4は、中空パイプをループ状に湾曲させた手摺本体27と、該手摺本体27の継ぎ合わせ部に固着され反第一回動手摺部3側に回動軸受26の爪部26d、26d、・・・に噛合する爪部28a、28a、・・・を有する筒状の基部28からなる。さらに、この基部28内には段付軸29が一体となるように固着されている。なお、30は手摺プレートである。この手摺プレート30も前記第一回動手摺部3の手摺プレート17と同様に、ベッドBの使用者Uの手や布団などが不用意にベッドBからはみ出さないようにするためのものである。